

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	河川維持事業	会計名称	一般会計		担当課	土木管理課	
		予算科目	8 款 3 項 2 目	事業番号	3631	所属長名	武智年哉
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	一方井浩介	
法令根拠等	河川法				実施期間	【開始】	令和/平成 17 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 潤いのある水環境づくり					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	維持管理を適切に行い災害等を未然に防ぐとともに、潤いのある水環境の整備を図る。						
事業の対象	河川沿線の住民及び、河川水を飲料・農業用水で利用している市民			事業の目的	沿線住民が安心、安全、快適な環境を維持できるように、自然を生かしつつ防災機能も備えた河川として、その機能を健全に保つ。		
事業の内容 (整備内容)	護岸の維持補修、法面の除草、河川堆積物の撤去等を行い、河川機能を健全に保つ。			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1年度予定	9月末の実績	1年度実績
直接事業費	228	1,035	0	0	0	144	委託料	千円	228	405	0	47
財源内訳												
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	工事請負費	千円	0	630	98	98
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	1	10	0	0	0	1						
一般財源	227	1,025	0	0	0	143						
職員の人工(にんく)数	0.05	0.05				0.05						
1人工当たりの人件費単価	7,982	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	627	1,435				544						
主な実施主体	伊予市		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		請負							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	5年間の合計		
					1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000		
成果指標	指標	修繕箇所÷要望箇所=実施率	単位	⇒	区分年度	前年度	1年度	2年度	目標	毎年度		
			%		目標	100	100	100	100			
	指標設定の考え方	要望箇所に対する修繕の割合を上げるにより、沿線住民が安全且つ快適な生活を送ることができる。	実績		100	100						
	指標で表せない効果											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		山間部の谷川などで護岸破損及び土砂の堆積などが発生した場合、周辺の地形等を考慮し、対策を見送り経過観察することも検討する。								
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題	河川法面の草刈り等の維持管理については、地元の協力を得るとともに、職員により定期的に草刈りを行い、委託料の軽減に努めた。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	3					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市の積極的に関与・実施すべき事業である。	3					
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	3					
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多量である。	3					
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4						
		コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3						
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	3						
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A		事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 住民の安心・安全の確保のため、継続的な土砂、葦等を撤去し、通水断面を正常な状態に保つため、事業継続とする。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市の積極的に関与・実施すべき事業である。	4					
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	3						
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	3						
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多量である。	4						
効率性		手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4						
		コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3						
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	3						
所属長の課題認識	河川上流部の周辺農地や山林が荒廃し、谷川が土砂で閉塞することが多くなっているが、土砂撤去や護岸補修をするべきか判断に苦慮している。	河川上流部の果樹園・山林の荒廃により少雨でも、土砂等の流出が発生している状況で、年々費用が増大する傾向であり予算の確保に苦慮している。								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
			河川台帳が未整備であることから、まずは地元代表者や地元区長等から河川名称ぐらいから聞き取りの調査を行い、台帳整備の一步を踏み出すこと。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。			

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容
<div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>		

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性		コメント欄
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	